

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 3 区分
 【発行日】平成26年4月10日 (2014.4.10)

【公表番号】特表2011-521015(P2011-521015A)
 【公表日】平成23年7月21日 (2011.7.21)
 【年通号数】公開・登録公報2011-029
 【出願番号】特願2011-503400(P2011-503400)
 【国際特許分類】

C 0 8 F 290/06 (2006.01)

C 0 3 C 27/12 (2006.01)

B 3 2 B 17/10 (2006.01)

C 0 8 F 2/44 (2006.01)

【F I】

C 0 8 F 290/06

C 0 3 C 27/12 P

B 3 2 B 17/10

C 0 8 F 2/44 B

【誤訳訂正書】

【提出日】平成26年2月24日 (2014.2.24)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

放射線硬化性難燃性組成物であって、

(i) ウレタン (メタ) アクリレートから選択される 1 種又は複数種のオリゴマーを含む、少なくとも 1 種のポリマー前駆物質、及び、

(i i) 前記組成物中に可溶であり、少なくとも 10 g / L の 20 °C における n -ブチルアクリレートへの溶解度を有する、20 ～ 80 重量%の、1 種又は複数種の脂肪族ハロゲン化難燃性添加剤、

を含む放射線硬化性難燃性組成物。

【請求項 2】

該脂肪族ハロゲン化難燃性添加剤が、少なくとも 10 g / L の 20 °C におけるアクリル酸への溶解度をさらに有する脂肪族ハロゲン化難燃性添加剤から選択される、請求項 1 に記載の放射線硬化性難燃性組成物。

【請求項 3】

該脂肪族ハロゲン化難燃性添加剤がハロゲン化アルコールである、請求項 1 に記載の放射線硬化性難燃性組成物。

【請求項 4】

該脂肪族ハロゲン化難燃性添加剤が、少なくとも 40 重量%の臭素含量を示す脂肪族臭素化難燃性添加剤である、請求項 1 に記載の放射線硬化性難燃性組成物。

【請求項 5】

該脂肪族臭素化難燃性添加剤がトリプロモネオペンチルアルコールである、請求項 4 に記載の放射線硬化性難燃性組成物。

【請求項 6】

20 ～ 80 重量%の、前記オリゴマー、及び、1 又は複数の (メタ) アクリル基を含む

モノマー、から選択される１種又は複数種のポリマー前駆物質、
を含む、請求項１に記載の放射線硬化性難燃性組成物。

【請求項７】

該ポリマー前駆物質が、モノー、ジー、トリー及び／又はテトラー（メタ）アクリレートから選択される１種又は複数種の（メタ）アクリル化モノマーを少なくとも２０重量％含む、請求項６に記載の放射線硬化性難燃性組成物。

【請求項８】

該ポリマー前駆物質が、ウレタン（メタ）アクリレート、ポリエステル（メタ）アクリレート及びエポキシ（メタ）アクリレートから選択される、１種又は複数種のオリゴマーを少なくとも５重量％含む、請求項６に記載の放射線硬化性難燃性組成物。

【請求項９】

該オリゴマーが、１０～５００％の破断伸びを有する、ウレタン（メタ）アクリレート及びエポキシ（メタ）アクリレートから選択される、請求項８に記載の放射線硬化性難燃性組成物。

【請求項１０】

該オリゴマーが、１０００～１００００の分子量を有する脂肪族ウレタンアクリレートである、請求項８に記載の放射線硬化性難燃性組成物。

【請求項１１】

該組成物がリン含有難燃性添加剤を含有しない、請求項１に記載の放射線硬化性難燃性組成物。

【請求項１２】

３０～７０重量％の、１種又は複数種の脂肪族ハロゲン化難燃性添加剤を含む、請求項１に記載の放射線硬化性難燃性組成物。

【請求項１３】

ガラス積層物の製造方法であって、

（ｉ）請求項１に記載の放射線硬化性難燃性組成物を用意する工程、

（ｉｉ）少なくとも１枚はガラスである基材２枚の間に該放射線硬化性難燃性組成物を置く工程、及び、

（ｉｉｉ）該放射線硬化性難燃性組成物を硬化させて該基材間の中間層を形成するポリマーを形成する工程、

を含む、方法。

【請求項１４】

請求項１に記載の放射線硬化性難燃性組成物によって得られる、少なくとも１つの中間層を含むガラス積層物。

【誤訳訂正２】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】００４５

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【００４５】

他の臭素化難燃剤、例えば、ＩＣＬによってＦ３１００として販売されている臭素エポキシポリマー、ＡｌｂｅｍａｒｉｅによってＢＴ９３として販売されているエチレン・ビステトラブプロモフタルイミド、ＩＣＬによってＦＲ－１２０６として販売されているヘキサブプロモシクロデカン、ＩＣＬによってＦＲ－７２０として販売されているビス（２，３）－ジブプロモプロピルエーテル、ＩＣＬによってＦＲ－３７０として販売されているトリス（トリブプロモネオペンチル）ホスフェート、ＩＣＬによってＦＲ－５２２として販売されているジブプロモネオペンチルグリコール、及びＩＣＬによってＳＲ－２４５として販売されている２，４，６－トリス（２，４，６－トリブプロモフェノキシ）１，３，５－トリアジンも試験されている。これらは、上記条件下でｎ－ブチルアクリレート及びアクリル

酸中に溶解性ではなく、透明な積層物を得ることを可能にしない。